

第6回 アジア オーストラレーシア麻酔学会印象記

第6回 アジア オーストラレーシア麻酔学会は、1月16日から1月22日の間、ニュージーランドのオークランド大学で開催された。



ちょうど大学では、夏期休暇中で、大学内の講義室2個所を会場に使用した。

参加者の数は約450名で、会場の広さも適切で、運営は簡素なうちにも、誠意にあふれていた。

シンポジウムと一般演題が併行した時間帯があったが、そのときは、教育的色彩の強いシンポの方に、参加者が集中しすぎる傾向があった。しかし、両会場とも質問が多く、熱心にノートを取り、学習への意欲に燃えていた。

参加者数が余り多くないので、6日間の会期中にお互いに親しくなれたのも、国際学会での収穫であった。

日本からの参加者が多く、一般演題・シンポでの発表や座長、司会を見事な英語で務められたのは立派であった。

私もシンポを中心に学会発表を聴いてきたので、そのいくつかを紹介する。

演題では次の7題であった。

Towards Rest From Pain
Intensive Care, Paediatric Anaesthesia
Pain Control In The Surgical Patient

The Heart And Anaesthesia
The Lung And Anaesthesia
Regional Anaesthesia

Towards Rest From Pain では、疼痛は、患者に精神的にも身体的にも苦痛を与えるが、そのうえ、個人ならびに社会への経済的負担も大きく、疼痛の治療は麻酔医の重要な任務であることが論じられた。Vickersは、The P. A. I. N. Machineを紹介していたが、Patient Activate Injected Narcotic Apparatus の略で、名前のごとく、疼痛を感じた患者が自分で簡単な switch 操作を行い、少量の鎮痛剤を筋注または静注する装置であ

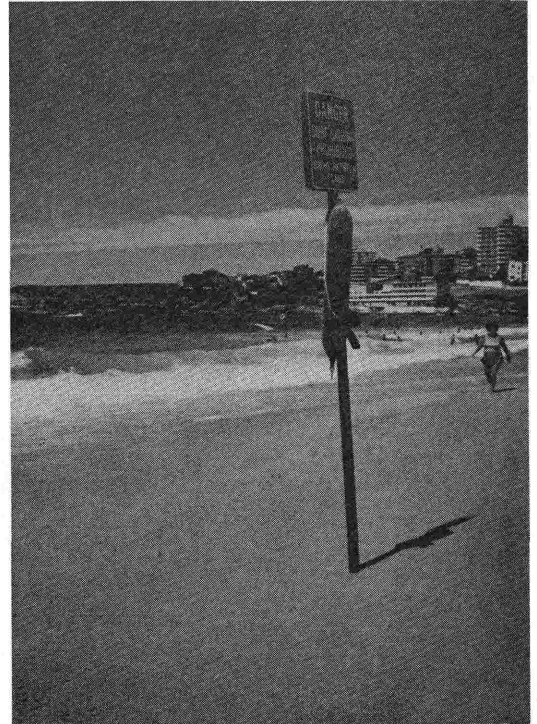


図1. 棒状の救命具
両端の hook で浮輪となる。救助隊員がロープで引っばって泳ぐのに具合がよい。
(シドニー・バンドイビーチにて)

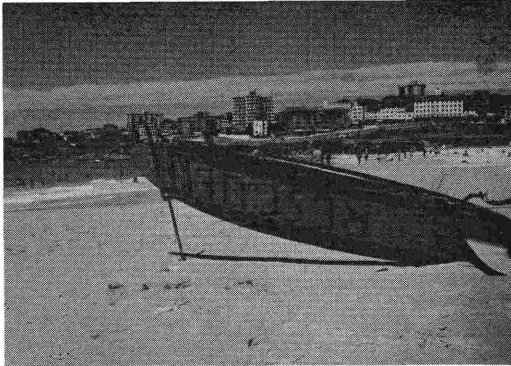


図 2. 救急用サーフボード
“いたずらに使用すると 150 ドルの罰金”
とのプレートがついている。
(シドニー・バンダイビーチにて)

る。疼痛は、患者の主観的な感覚であるから、その訴えをもとに医師や看護婦が判断して投薬するより、自分で投与する方が、感受性の個人差も解消され、鎮痛効果が優れ、かつ副作用も少ないということで、疼痛に対処する考え方としても、興味深いものであった。

Intensive Care のうち、とくに溺水に関する部分は、われわれのもっとも関心の深い問題である。溺水事故とアルコール摂取が関連することや、治療としては、O₂投与、CPPV、水分制限等があげられていたが、とくにこの地域での救急活動の実際に関する説明は興味深かった。海水浴場には、救急隊員用のサーフボードが常備されており、泳いでも容易に引っぱれる細長い棒状の浮きで両端の hook をつなぐと浮輪になる救命具や、溺水者を沖から引きよせるロープを巻いたリール等は、シドニーのバンダイビーチでもみかけた。

ヘリコプターも頻回に使用され、溺水者をロー

プで海岸まで運ぶあいだ、空中で救急隊員が口移し人工呼吸ができるように、そのロープの長さが調整され、それぞれ色分けされている。また、人出の多い海水浴場では、常時、数隻の救命ボートが、警戒にあたっている等、わが国でも見習うことが少なくないように思えた。

ちなみに年間の溺水死亡事故は、人口10万に対して、オーストラリアは、3.29名、ニュージーランドでは、3.6名とのことであった。

Pain Control In Surgical Patient では、麻薬、非麻薬系鎮痛剤、くも膜下腔モルヒネ、末梢神経ブロック等、広般な話題があったが、局麻剤の副作用に関連した Nunn の発表は興味があった。彼は、胸郭、腹部の呼吸に伴う変化を電氣的に連続記録する装置を作成して、換気量や、胸郭と横隔膜運動の協調性の有無を観察して、中枢性の呼吸抑制と気道閉塞による呼吸抑制の鑑別を行った。覚醒状態では気道閉塞は少なく、麻酔投与で中枢性呼吸抑制を認めるほか、硬膜外麻酔でも中枢性抑制のあることを証明した。また、この装置が non-invasive な continuous monitor である点を強調していた。

最終日の Regional Anaesthesia は、司会とパネリストとして日本人の活躍したシンポであった。北里の田中教授が、頸部硬膜外麻酔の多数の症例の経験を発表された。とくに、ヘパリン使用の症例でも合併症を経験しなかったという発表に対し、腹部交感神経で2例の死亡例を経験したという反対意見が述べられ、充実したシンポであった。

4年後の次回は、香港とのことで、更に盛大な学会となることと楽しみである。

山本道雄

岐阜大学医学部麻酔学教室

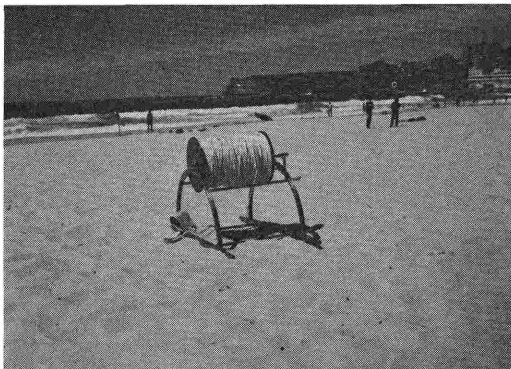


図 3. 溺水者をひきよせるためのリール
(シドニー・バンダイビーチにて)